

良城（吉敷）だからこそこの歴史学習

先週、県の埋蔵文化財センター所蔵の土器などの本物を借りてきて6年生に社会の授業を行いました。

実は、私は28～30才まで、埋文セン



ターに勤務し、さらにその後5年間、山口市教委で文化財行政に携わっていました。山口市教委在任中は、朝田のバイパストンネルの上にある朝田墳墓群遺跡公園設置の副担当でしたし、吉敷地区の何カ所かで発掘調査を行ったこともあります。

今年、遺跡の位置する本校に着任することになり、自分の経験を子どもたちに伝えることは自分の使命だと思いました。

今回は、縄文、弥生、古墳時代の土器や石器、装飾品を借りてきました。教科書や資料集で見たものを生で見ることの教育効果は大きいと思います。特に、3つの時代の土器を手で触り、時代による堅さの違い



を感触や音（匂いも）で味わうことができたことはよかったですね。

山口市には大変多くの遺跡があります。ここ吉敷地区は縄文時代以降の住居跡だけですが、バイパスを作るときには、ロッテリアの周りを中心に、多くの竪穴式住居が見つかり、土器も大量に出土しています。吉敷地区はバイパス建設後、急激に宅地化されましたが、実は大昔からずっとそうだったのです。

そして、前出の朝田遺跡周辺の丘陵は、弥生時代から、この周囲に住んでいた人々の集団墓地でした。また、上東の土師八幡宮は、中世の土師器造り職人の氏神であると言われていています。

また、吉敷地区ではありませんが、古墳時代の土器である須恵器を焼いていた窯跡が、山口市の陶地域の山麓にはたくさん残っています。

このように、吉敷地域周辺には、歴史を本物で学べる場所が多くあります。是非とも、地域の文化財を活用して、良城（吉敷）だからこそこの授業を行っていきましょう。私もお手伝いをさせていただきます。

児童に陶地域の須恵器窯の話をした木曜日、隣にある周防鑄銭司跡の発掘の記事が毎日新聞に掲載されていたので、裏面に載せています。2号線横のセキスイ工場の前にある広場（史跡として国が管理）では9世紀頃から百数十年間、国の銅銭を製造していた国営造幣所がありました。この発掘情報も今後、授業で活用できたらいいですね。

山口市内の教員として、この発掘情報にもご注目ください。